

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：15301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20059

研究課題名（和文）前近代地中海域における海上境域の形成と海域国家論の構築

研究課題名（英文）Forming Maritime Boundaries and Constructing Maritime State Theory in the Pre-Modern Mediterranean

研究代表者

高橋 謙公 (TAKAHASHI, Akihiro)

岡山大学・社会文化科学学域・准教授

研究者番号：50961596

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究を通じて、イタリアとスペインにて2週間にわたる文献史料を調査し、これまで曖昧に認識されてきた前近代地中海世界における海上権力の在り方をめぐって、シチリア（島）王国やマジョルカ王国などの島国による海域政策を分析した。その結果、同国家による海上リスクと海上保安の政治利用を明らかにし、島国特有の権力構築の一端を解明した。国際シンポジウムにて当該成果を報告し、そこでの議論の中から、その時代の海上リスクにまつわる法思想的な背景を明らかにするという、新たな課題を得ることができた。本課題を解決することによって、「海域国家」の在り方をより鮮明に描くことができるだろう。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで曖昧に認識されてきた前近代地中海世界における海上権力の在り方を明確にする。それによって、前近代地中海世界における国際政治における権力構造を、島国の観点から描き従来の国際関係史に一石を投じた。また近現代における海域支配において重要な要素となる領海概念の形成において、その前史を明らかにすることを意味する。現在の複雑化している国際関係に向き合う上で、本研究は歴史的な観点から、主導的な国家だけにとらわれない、多角的な視座を提供する一助となるだろう。

研究成果の概要（英文）：Through this study, I spent two weeks in Italy and Spain researching archives and analyzing the maritime policies of island states such as the Kingdom of Sicily and Majorca, focusing on the previously ambiguously recognized nature of maritime power in the pre-modern Mediterranean world. As a result, we clarified the political use of maritime risks and maritime security by these states and elucidated certain aspects of power construction unique to island states. The findings were presented at an international symposium, where discussions led to the identification of a new challenge: to clarify the legal and ideological background of maritime risk during that period. By addressing this issue, we aim to provide a clearer understanding of the concept of the 'maritime state'.

研究分野：人文学

キーワード：地中海史 商業史 国際政治史

1. 研究開始当初の背景

従来、シチリア王国は 13 世紀から 14 世紀に経験した破局的な戦争・内乱・疫病によって衰退しゆく国家として描かれてきた。しかし申請者は、土地に権力の源泉を見出す従来の視点から、その王国と海域との関係に目を転じることで、従来の定説を覆す事実を見出した。その背景には、地中海史家ニコラス＝パーセルらが「接続」をキーワードに提示した海域史や相互作用を前提とした観点を示した家島彦一の海域ネットワーク論が重要な視座となった。同理論は、相互接続によって紡がれた歴史の重要性を提示し、昨今の海域史研究において、権力や秩序の形成が一国の営為ではなし得ない、重層的な産物であったことを示唆している。これまで申請者は、上記の研究動向の応答として、シチリア王国の君主が、諸国家との関係の中で王国周辺海域の航海の安危に影響を与える政治権力を行使するとともに、その海域管理によって独自の君主権力を醸成した過程やメカニズムを解明してきた。その成果は、中近世において、政治権力が土地に結びつくだけではなく、海域と結びつく権力を備えた「海域国家」の具体的なあり方を示すとともに、海そのものの歴史研究へと続く発展的な課題を得るに至った。

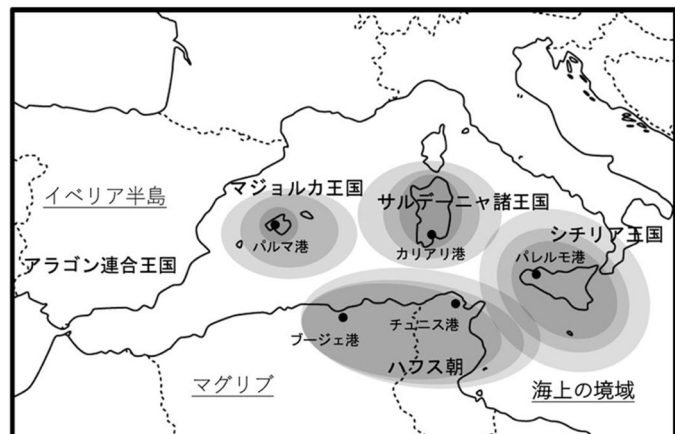
2. 研究の目的

本研究は、前近代地中海世界における複数の海上政治権力を俯瞰し、それらが織りなす「海上境域」の形成と展開を解明することで、地中海域における海域国家論の構築を目指す。

3. 研究の方法

本研究における大きな問いとして、第一に、海域に基づく政治権力の構築が中世シチリア王国に特有のものであったのか、を検証する。本件に関して、具体的な分析対象として、バレアレス諸島のマジョルカ王国とサルデーニャ島王国群の事例を挙げる。第二に、海域の政治権力が異教徒間交流に及ぼした影響を及ぼしたか、を検証する

(1) バレアレス諸島マジョルカ王国は、その成立の経緯からアラゴン＝カタルーニャ連合王国(以下、連合王国と表記)の支配地であったが、その後、イベリア半島勢力から半ば自立した。マジョルカ王権が、マジョルカ島の第一港であるパルマで行なった港湾政策は、海域を利用して権力を醸成した海域国家像を明らかにする手がかりとなる。本研究はその政策と諸国家間の関係を明らかにする。



(2) 中近世のサルデーニャ島は複数の王国が分有していた。13 世紀のサルデーニャ島で有力だったアルボレア王国は、連合王国支配下のサルデーニャ王国と同盟し、イタリアの有力港湾都市ピーサの勢力を島から放逐した。サルデーニャ諸王国とピーサの間には、マジョルカ島やシチリア島以上に複雑な形で、海域を利用した権力の構築と港を巡る争いが生じていたと考えられる。本研究ではその動向と海域との関係を明らかにする。

(3) 最後に、チュニスとブージュエを支配したハフス朝は、13 世紀から 16 世紀のオスマン朝軍の侵略を受けるまで、マグリブ沿岸の重要な港湾都市を独占していた。ハフス朝の支配下にあった港には、宗教の異同に関わらず、多くの渡海者の往来を見た。異文化が交わるハフス朝の長期存続と、海域と政治権力との結びつきは無関係ではないと考えられる。本研究は、ハフス朝の海域政治権力のあり方を明らかにするとともに、異教徒間交流において、諸海域国家が果たした役割まで明らかにする。

4. 研究成果

本研究成果は、前近代地中海世界における島国が、海上の権力を保つ上で取ることができた施策を明らかにしたと言える。しかし初年度にて新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて研究に遅れが出たこともあり、当初予定していた研究計画を大幅に見直す必要が生じた。具体的には、サルデーニャ島での調査や北アフリカ関連史料の調査において、時間が制約され、十分な調査を行うことができなかった。しかし 2023 年度におけるスペイン・イタリアでの文献史料調査を通じて、マジョルカ王国およびシチリア王国での史料収集が叶った。

本研究の成果は、7 月 4 日にイギリス・リーズ大学で開かれた国際中世学会 (Leeds International Medieval Congress)にて"Maritime Security around the Insular Kingdom of Sicily after the Sicilian Vespers (1282)" というタイトルで海上権力を構成する要素である海上安危の管理についての報告を行なった。本国際学会での議論を通じて得られた知見を、同年 11 月 3 日に京都大学で開かれた京都大学読書会大会西洋史部会において、「中世後期シチリ

ア王国／島王国における暴力の統制と海域秩序 - シチリア海域の境域性と海事掠奪制度から - 」というタイトルで、海上リスクの一例として海上掠奪に関する報告を行なった。

2023年度になり、前年度での国際学会や国内学会での報告を踏まえ、史料調査の成果として、2023年10月6日から8日にかけて立教大学で開催された国際シンポジウム Water Networks, Islands, and Political Powers in the Global Middle Ages で、"Maritime Power in the Kingdom of Sicily: Navigating Maritime Risk and Port Control"と題する報告にて、地中海の島国が海上権力を保つ施策について、「私掠：上位権力によって認可された暴力」を中心に発表を行った。本国際シンポジウムにて、前近代の海上掠奪問題に造詣の深いライデン大学リース・シッキング教授を中心に意見を交換し、本研究が海外の研究動向において重要な指摘であることを確認するとともに、本国における海域史研究において、政治、経済、法制の分野横断的な成果となると考えられる。

同時に、上記国際シンポジウムにて新たな課題を得ることができた。すなわち海域にまつわる法思想と実際の司法実践の在り方について、その連関の有無や齟齬を明らかにすることで、より海域国家像を具体化することができると指摘を受けた。具体的には海上掠奪に関して言及を加えた中世の法思想家トマス・アクィナス、バルドゥス・デ・ウバルディス、アンドレア・ディ・イゼルニアらの言説と当時の海域社会との関係性を明らかにするという課題を得た。引き続き、海域国家の在り方を探究していく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Akihiro TAKAHASHI
2. 発表標題 Maritime Security around the Insular Kingdom of Sicily after the Sicilian Vespers (1282)
3. 学会等名 Leeds International Medieval Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋 謙公
2. 発表標題 中世後期シチリア王国 / 島王国における暴力の統制と海域秩序 - シチリア海域の境域性と海事掠奪制度から -
3. 学会等名 京都大学西洋史読書会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akihiro TAKAHASHI
2. 発表標題 Maritime Power in the Kingdom of Sicily: Navigating Maritime Risk and Port Control
3. 学会等名 Water Networks, Islands, and Political Powers in the Global Middle Ages (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------